

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103722		
法人名	(有)アイファミリー		
事業所名	グループホーム ファミリー		
所在地	松山市北梅本町甲3264 (電話) 089-970-3381		
管理者			
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	4月25日	評価確定日	7月13日

【情報提供票より】 (19年4月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 12月 19日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	24 人 常勤4人, 非常勤20人, 常勤換算0人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	有 (円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (4月11日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 <u>あり</u> ・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 <u>あり</u> ・なし	指定認知症対応型通所介護
届出 <u>あり</u> ・ <u>なし</u>	短期利用型共同生活介護
加算 <u>あり</u> ・ <u>なし</u>	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道や私鉄の駅は近いが、田畑の自然が残るホームである。近くには住宅地があり、隣は自衛隊駐屯地である。時々騒音も聞かれるが、静かな環境となっている。開設後3年が経過し、日々の生活は利用者・職員ともに落ち着いている。比較的認知症の軽度な方がいるためか、意思確認をしながら丁寧にケアしている。食事は普通のメニューだが、代表等がつくっている新鮮な野菜を使い、調理師の資格を持った介護職員の美味な味付けが印象に残り、利用者にも好評であった。管理者の上に総括部長職が置かれて管理者は主に利用者の実践にかかわることができている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
「ホーム便り」の発行を年4回実施している。他の項目は管理者が交代していることもあり、前回の取り組みや改善状況について正しく把握し実践できていない。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
準備不足もあり、期日が短く全職員で取り組むことができていない。外部評価の意味や自己評価項目は職員も理解している。結果が出れば外部評価とともに具体的な実践ができるように取り組むたいと予定している。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
現在まで2回開催している。会議の趣旨や事業所の概要説明をし、ホームの意味を知ってもらった。その他、ホームの入居者の状況や職員の説明・紹介でホームを理解してもらい、地域との交流や家族との関わりについては働きかけの具体的なものの情報交換をし、職員の研修状況について報告し、質の向上について検討することとする。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
面会時及び必要時の電話連絡、書類送付等で直接意見等を聞いている。まだ家族会は結成していないが、年4回「ホーム便り」を発行し、情報交換の一助としている。苦情の窓口は内部だけでなく外部の連絡方法も具体的に説明し、明示することを期待する。また、申し出があった時は早急に対応し、解決努力をして必要時開示することを期待する。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
内部のケアの充実だけでなく、より質の高い生活をするために地域との関わりを深めるために情報を収集し、全職員で検討し、ホームの特徴を持った活動となることを期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム ファミリー
(ユニット名)	1 F
記入者(管理者) 氏名	山本登子
評価完了日	2007年4月11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 無理せず、あなたのできることをやりましょう。私たちがお手伝いしますから。 (外部評価) 理念を大切にケアに生かしているが、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えることを職員で話し合うことはまだできていない。	※	アイロンかけなど危険なことは見守りながら行っていただき、洗濯物の取り入れ・たたみ・個人別に分けたり、調理の下ごしらえをしていただく。 3年を経過し、全職員で地域の中でその人らしく生活することを支える理念を再確認することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者さんの介助に当たり、見守り介助を常に行い、自分にもできる、やる気と意欲を持っていただけるような介助を心がけている。 (外部評価) 採用時、会議時に職員に理念を伝え、理解してもらっている。また具体的なケアについては理念に添うように話し合い、統一するようにしている。		・手を出しすぎず、目を離さない。 ・バイタルチェックを行い、必要があれば受診介助を行う。穏やかにすごせるよう、常に観察を行い、必要があれば援助する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には理解していただけているが、地域の人とのかかわりがほとんど無かった。運営推進会議の開催を平成19年3月1日から行っている。	※	・面会時や運営推進会議で理解していただく。 ・ホームの新聞を作成し、地域の方に配布する。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 利用者さんと近所の散歩や買い物時など、ご近所の方にお会いした時には積極的に声がけを心がけている。	※	ホームの新聞やパンフレットを持参したり、行事のあるときは出席していただく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の活動としては、近隣の公民館や自衛隊の催しなど、積極的に参加しているが、自治会や老人会にはあまり参加できていない。 (外部評価) 自治会、町内行事、近くの自衛隊駐屯地や学校の活動等に参加し、地元の人々との交流に努めている。	※	地域での行事を把握して、一人でも多くの人が参加できるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者などに役立つことの話し合いはまったく行っていない。	※	退屈をしている高齢者の方に気軽に立ち寄っていただくよう声かけを行う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の評価 (H16) に対しては、改善点などあまり取り組めていない。 (外部評価) 自己評価の取り組みは全職員で十分できていないが、評価後の課題への取り組みをし、全職員で共有して質の充実を図りたいとの姿勢は強い。	※	サービスの質の向上のため、改善すべきことは早急に改善して、改善できたことが継続できる。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の開催が遅れ (H19. 1)、外部評価もH16以降行わなかった。 (外部評価) 市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町内会役員・ホーム職員がメンバーであり、家族の出席も得ている。会議の内容は報告・意見交換が主となっている。	※ ※	評価への取り組み状況などについて、報告や話し合いを行い、出た意見をサービスの質の向上に活かしたい。 まだ2回の開催のため運営がスムーズに行われていないが、メンバー・議題・開催時間・記録等少しずつでも充実していくことを期待する。また懸案事項の積み重ねも大切にしていきたいことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ホーム内での問題や不明なことなどは曖昧にせず、積極的に市の担当者に相談し、一つずつ解決改善している。 (外部評価) 市の担当者に相談し、ひとつずつ確認している。		市からの会議や研修会及びケアネット久米からの案内があった時は必ず出席して、サービスの質の向上に取り組む。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度の利用が必要な利用者はいない。	※	一人でも多くの職員が権利擁護や成年後見制度の研修を受ける。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法について、詳しく職員は学べていないが、事業所内で虐待が見過ごされることがないよう細心の注意を払い、防止に努めている。		カンファレンスを行い、家族の同意を得て、ベッド柵や車椅子安全ベルトを使用しているが、拘束時間は徐々に少なくなっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前・入所時、退所前・退所時には、十分な説明を行い、疑問点などを尋ね、理解されているか確認している。いつ何時でもご質問していただけるよう、常に声かけを行っている。		契約の時点では、十分な説明を行っているが、何かあればその都度話し合いを持つ。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 「世話になっている」と遠慮していると思われる。	※	食事や外出、サービスの質などについて、遠慮なく言える機会を作って差し上げたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭については、残高のみの報告。職員異動についても、当日会った職員のみ挨拶。 (外部評価) 家族への定期的な報告時、加療状況、小遣いの残金等報告している。健康状態や行事参加の写真等はその都度連絡送付している。また年4回「ホーム便り」を発行している。	※	・定期的にホーム誌を発行して、職員の紹介や報告などをする。 ・金銭出納帳は見いただき、確認印を貰うようにする。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来所の際ご家族には、ご意見やご要望があれば何でもおっしゃってくださいと声かけをしている。 (外部評価) 家族会は結成していない。家族の意見は面会時や数か月ごとのアンケートで聞き、必要事項については職員間で検討したり共有している。	※	サービスの質の向上のため、数ヶ月毎に無記名のアンケートに答えていただく。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 提案してもなかなか取り上げられない。	※	職員が自由に意見を述べられる環境づくりをする。意見や提案に対し、大勢で話し合う。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者さんに対し、職員の対応が偏らないよう、引き継ぎや話し合いの時間を持っている。また、利用者さん一人ひとりに担当職員を決めている。		職員の協力が得られている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりに担当職員を決めており、利用者さんの不安やダメージを防ぐ配慮をしている。 (外部評価) 利用者の担当職員を決めており、職員の異動時はできるだけ早めに対応して配慮している。また必要時に備えて両ユニットに対応できるようなローテーションを組んでいる		緊急時に備え、どちらのユニットでも対応できるよう、ローテーションしている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修を全く行っていなかった。 (外部評価) 採用時、職員の力量により異なるが1週間ぐらい指導を受けながら業務をしている。事業所内の研修会はできていない。	※	毎月2回に分けて社内研修を行い、全員参加を義務付ける。 社外研修は、職員が交代で受講する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) いろいろな会で同業者とお会いすることはあるが、挨拶程度で、それ以上の交流が出来ていないのが現状。 (外部評価) 研修会や会議での交流ができた方と情報交換や教えてもらったりしている。今後は近隣ホーム等との勉強会を開催したいと考えている。		ケアネット久米で開催される会議に出席し、同業者と交流し、相互訪問できるよう努める。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ストレスを抱えている職員には、休暇を取らず、サポートする、仕事内容の軽減を図るなどしている。		外部からの研修案内などを積極的に利用し、改善に努める。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況は把握しているが、実績に対し評価できていなかった。	※	社内外の研修を義務付ける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所当初は十分な声かけを行い、不安を取り除くようにしている。本人をよく観察し、何でも話しやすい状況を作っている。		相談から入所までに期間がある時は度々訪問して話を聴かせていただく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前・入所後一定の間は、利用者さんの状況を定期的にお知らせし、家族の方との信頼関係を築くよう努力している。		訪問や電話をして、本人の前では聞けないことを聴かせてもらう。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時に、的確な支援の見極めがあまりできていなかった。	※	相談を受けた時には、複数の専門職員が本人と家族が、必要としている支援を見極めるための話し合いを行う機会を早急に持つようにする。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 何事も利用者さんのペースに合わせ、無理強いないよう慎重に行っている。 (外部評価) 訪問や見学をしていただき説明をしている。また職員が複数で伺い相談に応じることもある。本人や家族から情報を集め馴染める工夫をしている。急なときは今までの状況を理解できるよう家族も関わって安心感が持てるようにしている。	※	複数の職員が話し合い、見極め、家族と相談していくようにする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 個々の能力やプライド、自尊心を尊重し、共生の気持ちで介護・介助をおこなっている。 (外部評価) 利用者の得意としていることや生活の情報を知り、共に生活していることを大切にしている。職員が肩をたたいてもらっている場面もあった。		・歴史やことわざ、調理方法などを積極的に聞いている。 ・利用者間で助け合っている場面(会話)は見守っている。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者さんの日々の生活の中での出来事や変化などを詳しく伝えている。	※	定期的に利用者さんの情報をホームだよりとして、ご家族に写真を添えてお送りしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族とのよりよい関係を保てるよう、利用者さんには家族さんから聞いた家族さんの情報（例えば、お孫さんが生まれる）など伝え、家族との距離をなくすよう努めている。	※	定期的にホームだよりやイベントでの写真などお送りするなど近況をお伝える。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人が訪問しやすい環境づくりに配慮している。		・でんわやはがき手紙など、自由に書いていただく。 ・なじみの場所へドライブする。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、孤立や揉め事がないよう配慮している。利用者さん同士、互いに支え合えるような関わりを持てるよう職員が関係を取り持っている。		食事の席や作業分担など、利用者と一緒に話し合っ、孤立しないよう努めている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所後も経過を聴く、ホームの近況を報告するなどしている。入院のための対処の方にはお見舞いに行くなどしている。		入院による退所者には、定期的にスタッフが交代でお見舞いに行っている。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの立場に立った、楽しく、生き甲斐の持てる生活環境を提供するよう努めている。		本人本位。 定期的に本人の希望や意思確認を行っていく。
			(外部評価) 表情・言葉・態度等で気持ちを知り、職員間でも情報交換して、それぞれにあった対応をするよう努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所当初には、利用者さんの生活歴や暮らし方・生活環境やサービス利用の経過等は、紹介して下さった事業所やの方や市職員の担当者に聞き取りし把握に努めている。また、職員に本人の嫌がることや注意事項など細かく伝えている。		入所前に関わっていた病院や他の事業所より情報を得ている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個々の能力や生活のリズムを把握し、日々の心身の状態を細かくチェックしている。		バイタルチェック・申し送り・ケース記録及び本人とのコミュニケーションより把握する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 複数人のスタッフが集まる機会がなく、1～2名ずつで数回に分けて話し合い又は参加できない者は書面を提出し、チームで計画を作成している。 (外部評価) 本人に合った計画を目指して、本人・家族の意見や要望を聞き、月2回のカンファレンスで職員の意見も検討し作成している。	※	月に2回カンファレンスを開き、いずれか1回参加を義務付け、一度に複数人で検討する。家族の意見を取り入れる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は3か月ごとに見直ししており、本人や家族の要望はその都度取り入れている。カンファレンスでは計画の評価、介護の反映等担当が主となり見直ししている。また緊急時はその時々計画変更をしている。		急激な変化に対しては、受診・治療などにより、しばらくの間様子を見て、状態が落ち着いた時点で見直しを行って行く。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録や申し送りなど十分に出来ていないときもあった。		ケース記録・バイタル記録、日々の申し送りや重要事項はすべて連絡ノートに記入し、全員出勤時に確認する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) (外部評価) 利用者の受診や買い物へ同行している程度である。自宅訪問や冠婚葬祭行事参加、旅行、公民館活動の参加等まではできていない。	※	まだ今後の課題として検討することを期待する(介護保険のサービス・自主サービス含め)。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防署による火災訓練を行っているが、他の資源との協力は行っていない。	※	早急に地域と関わり資源の活用をする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 福祉用具購入以外は他の介護サービスの利用はしていない。		広報や地域の施設のサービス情報を収集し伝える。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとは十分協働できているとはいえないが、運営推進会議などに参加していただくなど、少しずつ前向きなっている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 往診(1名) 家族介助(1名) 以外は通院介助している。 (外部評価) 利用者個々のかかりつけ医、事業所の協力医等希望する医療を受けている。受診や通院は事業所に対応しているが、家族が付き添うこともあり、情報共有はできている。訪問診療も可能である。		家族の希望による家族の通院介助及び往診以外の方は受診介助を行っている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医の指示があったり、家族が希望されるときは受診介助を行っている。		かかりつけ医の指示があった時や、家族が望まれるときは受診介助を行う。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 通院している病院の看護職の方や協力医の支援・指導を受けている。		看護職がないときもあるので、いないときは、かかりつけの医に相談する。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 施設を退所されるまでは、2～3日毎に訪問して、洗濯物や他の必要な日用品を届けている。		入院中は洗濯物や必要な日用品を届けるため、2～3日に1回は訪問する。 退所後は洗濯などはしないで、スタッフが交代でお見舞いに行く。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族の希望通りにしている。 (外部評価) 「重度化対応に関する指針」を作成しており、ホームで対応できるケアについて家族に説明し納得してもらっている。	※	看取りについて、契約時に決める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 看取りについて、契約時に取り決めがなく、家族の希望通りにしていた。	※	重度化や終末期の対応について事業所の「出来ないこと」を契約書に明記し、方針を決める。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人が希望されるなじみの品物を持ってきて頂いている。		本人が希望されるなじみの品物は、備え付けの物と入れ替える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 配慮のない声かけをしていることがある。 (外部評価) 利用者の誇りを大切にされた対応を心がけている。声のかけ方、態度等は丁寧なゆったりとしている。会話の内容にも注意している。	※	・職員の教育を徹底的に行う。 ・記録簿は、利用者・外来者の目の届くところに置かない。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人が理解できる方法（言葉や文字）で支援している。		本人が理解できて、決定できるよう言葉やジェスチャー、文字など工夫している。
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者本位。命令しない、強制しない。 (外部評価) 本人の希望を大切にしており、基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調やペースにそった生活をしている。昼食後も居室に入る方、居間で個々に過ごす方と自由になっている。		利用者優先が原則。業務優先をしてはいけない。押し付けてはいけない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 特に希望がない人は、送迎してくれる業者に依頼している。		美容院は家族さんで行ってもらう。理容室は送迎できる店に依頼している。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の手入れや収穫・調理の下ごしらえ・味付け・お茶くみ・下膳など。 (外部評価) 献立は利用者の希望を聞いて立てている。調理の準備(皮むき、簡単な作業)、配膳、片付け、テーブル拭き等している。食事は嚥下困難の方が現在いないため同じものを準備している。食事に時間を要する方は時々声をかけたり援助している。職員も同じテーブルと一緒に食べるため話題も多い。新鮮な野菜等を使い、調理も上手に美味しくできている		野菜の収穫・調理の下ごしらえ・味付け・お茶くみ・下膳などを強制しないで、出来る人にしていただく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ・お酒はスタッフが管理している。 ・食事制限のある方のおやつやジュース類はスタッフが管理している。		・お酒は主治医の許可をもらい、決められた量を守っていただく。 ・火災防止のため、喫煙はお断りしている。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄の声かけ・早めのおむつ交換を行っている。		本人の行動・表情を観察し、排泄パターン以外の声かけやトイレ誘導を行う。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望により時間を合わせている。 (外部評価) 本人の希望に添う入浴をしており、当日の朝本人に確認している。また入浴を嫌がる利用者への声かけや対応には工夫をしている。入浴時の対応は利用者ごとに配慮し羞恥心等にも気を付けている。		週2回以上の入浴を予定し、希望があれば回数を増やしている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本位。自由にしていただいている。		・リビングは常時明るくしており、起床や消灯の時間は決めていない。 ・利用者本位で遅くまでテレビを見ている人もいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) アイロンを掛ける人、洗濯物を入れる人など、利用者間で話し合っていて決めていることには意思を尊重している。 (外部評価) アイロンがけ、洗濯物入れ・たたみ等利用者間で話し合っていて役割を決めている。掃除、野菜や草花の手入れは興味のある方が出している。散歩は毎日しているが、外出が少ないため、今後外出機会を増やせるよう計画したいとの希望がある。		・役割については、利用者同志で話し合っていたことがある。 ・施設外での作業（野菜や花の手入れ）は興味を持っている人に自由に行っていた。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が管理できる人には小遣い程度を持っていただき、外出時に買い物していただく。		お金の管理が出来ない人でも持っていたいと希望があれば、家族と話し合いで小額を持っていただく。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は一日一回以上建物から出て、日に当たることに決めている。 (外部評価) 天気のいい日は一日一回以上はホーム外へ出て日光に当たることにしている。スーパーへの買い物、近くの神社・病院・ドライブ等希望にあわせて支援している。家族と共に観劇に出かける利用者もいる。	※	一日一回は建物より外に出る。 一人ひとりの楽しみごとに合わせて、散歩だけでなく外食やお弁当を持って出かけたり、喫茶店等でメニュー選びもしてこれまでの生活の継続やホームでの生活の変化の一つとなるよう期待する。歩行困難な利用者も車いす等を利用し一緒に行動できることを期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ・希望者は地域や近隣の行事や花見など職員と出かける。 ・家族さんの希望で迎えに来られたときは、自由に外出していただく。		短時間でいける場所での行事や季節の景色の移り変わりなどを職員と一緒に楽しむ。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は子機を利用して直接本人と話していただいている。 ・手紙が書けない人から希望があれば代筆している。		家族へ年賀状と暑中見舞いを出すため、施設よりはがきを渡している。書けない人は代筆して近況をお知らせしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 一部の利用者さんはできていない。 面会時間や人数の制限はなく、居室・リビング・和室の内、自由に選んでいただく。		面会時間や人数の制限はしていない。 面会者との外出も自由で、職員が目的地まで送迎することもある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 必要最小限の短時間の拘束は、家族の同意を得て行っている。		カンファレンスを行い、やむをえない場合のみ、家族の同意を得ている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には居室に鍵を掛けることは禁止している。 玄関は夜間のみ施錠している。 (外部評価) 夜間のみ玄関に施錠している。居室は利用者が内側から施錠することは可能である。その時は必要時職員が開けることは了解を得ている。職員は利用者の行動を見守っており、様子を察知し、時々声かけをしている。		本人の希望があれば本人に内側から掛けていただくが、安否確認のため、スタッフが開けることの詳細を得ている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室の戸を閉め切らないなどし、常時様子を伺えるようにしている。 利用者さん一人ひとりに担当職員を設け、責任を持たせている。		ケース記録・バイタル記録、申し送りの徹底。長時間居室に閉じこもり、施錠する習慣のある人には、安全確認のため、時間を決めて訪室することに同意してもらっている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握し、危険注意の必要な物品の使用・管理・保管をし、安全に心がけている。		危険注意の必要な物品の使用には必ず担当職員が介助する。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員の知識が同レベルではない。	※	研修やセミナーに積極的に参加できる機会を作る。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当については、マニュアルを作っているが、全ての職員に対し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	※	職員全員が対応できるよう、訓練や研修を早急にする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の人々との関わりが薄く、協力が得られるよう働きかけていない。 <hr/> (外部評価) 防災訓練はホームで行い、マニュアルはできており、必要などころには連絡通報を掲示している。地域の人々への働きかけはしていない。	※ ※	地域の人々の協力が得られるよう働きかける。 運営推進会議や自治会等で協力を呼びかけることを期待する。訓練は消防署の協力を得て定期的実施し、避難経路の確認や消火器の使い方、普段の注意事項等を確認することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 計画書の説明や面会時に相談している。	※	些細なことでも気が付けば、その時点で家族に連絡をし、説明・相談をする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックと表情・問いかけで、体調の変化を発見し、緊急を要する時はマニュアルに沿って対応している。		毎朝バイタルをチェック、記録し、表情や問いかけで体調の異変を発見する。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりに合った服薬介助を行い、こぼしたり、勝手に調整しないよう確認している。		・一人ひとりに合った服薬介助を行う。 ・飲み残し、こぼしたり、勝手に調整していないか確認を行う。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 体操をしていない。 散歩介助を行うことが極端に少ない。	※	・飲食物の工夫をする。 ・身体を動かすレクリエーションを行う。 ・室外での散歩を日課にする。 ・1日2回、午前・午後にラジオ体操を行う。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ・口腔ケアを拒否する人に対し、再度声かけをしていない。 ・全介助の利用者のケアは行っている。	※	・職員が一人でも多く口腔ケアの研修を受ける。 ・利用者全員が食後の口腔ケアができるよう、声かけ及び介助を行う。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 粥食やきざみ食で対応することがある。 水分制限のある人にはオーバーしないよう、他の人には十分摂取していただくよう、ペットボトルや急須を居室に置いている。 <hr/> (外部評価) 食事や水分の摂取量をチェックして記録している。利用者の好みを把握し、個々に応じた配慮をしている。栄養の専門的なチェックはしていない。	※	・偏食の多い人には別の献立をしている。 ・食事時以外に入浴後及び10時、15時にコーヒーやお茶などを飲んでいただく。 ・いつでも飲めるよう、居室にお茶など準備している。 ・水分制限のある人には、本人に納得してもらい、少量ずつ回数を多く増やして飲んでいただく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 研修ができてなく、認識が薄い。	※	流行の時期には貼り紙や連絡ノートを利用し予防に努めているが、社内研修を毎月開催し、全員が予防の大切さを再認識し、実行する。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 賞味期限の過ぎた物は利用しない。 冷蔵庫を過信しない、詰め込まない。 調理済みの食品は素手で扱わない。		賞味期限の確認を行う。 材料の買い置きはしない。 (当日又は前日に準備する) 冷蔵庫に入れすぎない、調理済みの食品は素手で扱わない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ・玄関の場所はわかりやすくガラスのため、事務所が見える。 ・駐車場は広く、玄関まで乗り入れできる。		敷地内に入ると玄関が正面にあり、ガラス戸のため、事務所から見えて、すぐ対応できる。 ・玄関のそばに車を止めることができる。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング・洗面所・洗濯場・浴室は南向きで明るく、テラスでは洗濯物や布団が干せる。 (外部評価) ゆったりとしたスペースがあり、ソファ等くつろげる場所がある。トイレは車いすでも利用可能である。換気や掃除などで常に臭気には気をつけている。テーブルや壁には季節の花や飾りがある。テレビの音や日差しも気にならない。		・玄関まで段差がなく、楽に移動できる。 ・季節の草花を飾ることで、季節感を味わっていた。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各々がソファ・テーブル・和室の好きな場所でテレビを見たり、横になったり、会話をしている。		リビングに和室が続いており、横になったり、正座をしたり、ソファでリラックスしたり、思い思いに過ごせている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたもの、気に入っているものを持ち込み、本人の好きな場所に置いたり、途中で置き場所を変更して、気分を新たにしている。 (外部評価) 馴染みのテーブル、いす、テレビ、仏壇、箆笥、ロッカー等持ち込まれており、配置等も個々に使いやすくしている。カーペットやコタツも置かれ、生け花や写真も飾ってある。希望があれば家族の宿泊も可能である。		家具などの持ち込みは自由で、配置についても本人の希望に合わせている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ・気になる匂いがある時は利用者さんに声をかけをして、短時間で換気を行っている。 ・温度調節は外気温と夏は5度程度とし、冬は利用者を確認して寒くないようにしている。		・トイレは24時間換気をし、においがこもらないようにしている。 ・居室の温度調整は、本人と話し合い、外気温と大きな差がないようにしている。
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下にものを置かない、床は濡れていないかなどのチェックが十分ではない。	※	利用者さんの立場に立った目線でのチェックの徹底をする。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 理念に沿っての介助に努めている。		失敗をしても指摘しないで自信を失ったり、消極的にならないよう援助している。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 敷地内には畑があり、季節の野菜や花を植えている。野菜収穫や花の世話をご自分のペースでできるようにしている。		花や野菜の手入れなど、敷地内の活動については、一人ひとりの能力に合った方法で自由に行っている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ①ほぼ全ての利用者の 評価) ②利用者の2/3くらいの 3利用者の1/3くらいの 4ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ①毎日ある 評価) ②数日に1回程度ある 3たまにある 4ほとんどない	食事やおやつを会話を交えながら食べる時間を持つようにしている。 折り紙や絵、書道など共に作業し楽しい時間を共有している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	起床・食事・入浴・就寝など、利用者本位。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	声かけをすれば外出するが、積極的にはでかけない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	定期受診以外に体調の変化がある時や本人からの訴えがある時は、受診介助を行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	本人からの訴えがある時は、迅速に対応をしている。 常時利用者さんの状態を伺い、不安や求めていることに耳を傾け改善するよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己 ①ほぼ全ての家族と 評価) ②家族の2/3くらいと 3家族の1/3くらいと 4ほとんどできていない	時々しか来られない家族さんがいる。 面会時には、面会前後に話し合っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ①ほぼ毎日のように 評価) ②数日に1回程度 ③たまに 4ほとんどない	地域との交流がほとんど図れていない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民や地元の関係者とのつながりがなかったことと、運営推進会議の開催が遅れたため(初回：平成19年1月)
98	職員は、活き活きと働いている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	無理のないシフトを組んでいる。職員に偏った作業負担をかけない様に気をつけている。不満や意見はいつでも言える状態を作っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	長時間かけて、遠出をしたい希望はあるが実行できない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時にご家族に改善すべき点をお伺いしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム ファミリー
(ユニット名)	2 F
記入者(管理者) 氏名	山本登子
評価完了日	平成19年5月22日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 無理せず、あなたのできることをやりましょう。私たちがお手伝いしますから。 (外部評価) 理念を大切にケアに生かしているが、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えることを職員で話し合うことはまだできていない。	※	アイロンかけなど危険なことは見守りながら行っていただき、洗濯物の取り入れ・たたみ・個人別に分けたり、調理の下ごしらえをしていただく。 3年を経過し、全職員で地域の中でその人らしく生活することを支える理念を再確認することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者さんの介助に当たり、見守り介助を常に行い、自分にもできる、やる気と意欲を持っていただけるような介助を心がけている。 (外部評価) 採用時、会議時に職員に理念を伝え、理解してもらっている。また具体的なケアについては理念に添うように話し合い、統一するようにしている。		・手を出しすぎず、目を離さない。 ・バイタルチェックを行い、必要があれば受診介助を行う。穏やかにすごせるよう、常に観察を行い、必要があれば援助する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には理解していただけているが、地域の人とのかかわりがほとんど無かった。運営推進会議の開催を平成19年3月1日から行っている。	※	・面会時や運営推進会議で理解していただく。 ・ホームの新聞を作成し、地域の方に配布する。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 利用者さんと近所の散歩や買い物時など、ご近所の方にお会いした時には積極的に声がけを心がけている。	※	ホームの新聞やパンフレットを持参したり、行事のあるときは出席していただく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の活動としては、近隣の公民館や自衛隊の催しなど、積極的に参加しているが、自治会や老人会にはあまり参加できていない。 (外部評価) 自治会、町内行事、近くの自衛隊駐屯地や学校の活動等に参加し、地元の人々との交流に努めている。	※	地域での行事を把握して、一人でも多くの人が参加できるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者などに役立つことの話し合いはまったく行っていない。	※	退屈をしている高齢者の方に気軽に立ち寄っていただくよう声かけを行う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の評価 (H16) に対しては、改善点などあまり取り組めていない。 (外部評価) 自己評価の取り組みは全職員で十分できていないが、評価後の課題への取り組みをし、全職員で共有して質の充実に図りたいとの姿勢は強い。	※	サービスの質の向上のため、改善すべきことは早急に改善して、改善できたことが継続できる。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の開催が遅れ (H19. 1)、外部評価もH16以降行わなかった。 (外部評価) 市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町内会役員・ホーム職員がメンバーであり、家族の出席も得ている。会議の内容は報告・意見交換が主となっている。	※ ※	評価への取り組み状況などについて、報告や話し合いを行い、出た意見をサービスの質の向上に活かしたい。 まだ2回の開催のため運営がスムーズに行われていないが、メンバー・議題・開催時間・記録等少しずつでも充実していくことを期待する。また懸案事項の積み重ねも大切にしていきたいことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ホーム内での問題や不明なことなどは曖昧にせず、積極的に市の担当者に相談し、一つずつ解決改善している。 (外部評価) 市の担当者に相談し、ひとつずつ確認している。		市からの会議や研修会及びケアネット久米からの案内があった時は必ず出席して、サービスの質の向上に取り組む。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度の利用が必要な利用者はいない。	※	一人でも多くの職員が権利擁護や成年後見制度の研修を受ける。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法について、詳しく職員は学べていないが、事業所内で虐待が見過ごされることがないよう細心の注意を払い、防止に努めている。		カンファレンスを行い、家族の同意を得て、ベッド柵や車椅子安全ベルトを使用しているが、拘束時間は徐々に少なくなっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前・入所時、退所前・退所時には、十分な説明を行い、疑問点などを尋ね、理解されているか確認している。いつ何時でもご質問していただけるよう、常に声かけを行っている。		契約の時点では、十分な説明を行っているが、何かあればその都度話し合いを持つ。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 「世話になっている」と遠慮していると思われる。	※	食事や外出、サービスの質などについて、遠慮なく言える機会を作って差し上げたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭については、残高のみの報告。職員異動についても、当日会った職員のみ挨拶。 (外部評価) 家族への定期的な報告時、加療状況、小遣いの残金等報告している。健康状態や行事参加の写真等は都度連絡送付している。また年4回「ホーム便り」を発行している。	※	・定期的にホーム誌を発行して、職員の紹介や報告などをする。 ・金銭出納帳は見いただき、確認印を貰うようにする。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来所の際ご家族には、ご意見やご要望があれば何でもおっしゃってくださいと声かけをしている。 (外部評価) 家族会は結成していない。家族の意見は面会時や数か月ごとのアンケートで聞き、必要事項については職員間で検討したり共有している。	※	サービスの質の向上のため、数ヶ月毎に無記名のアンケートに答えていただく。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 提案してもなかなか取り上げられない。	※	職員が自由に意見を述べられる環境づくりをする。意見や提案に対し、大勢で話し合う。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者さんに対し、職員の対応が偏らないよう、引き継ぎや話し合いの時間を持っている。また、利用者さん一人ひとりに担当職員を決めている。		職員の協力が得られている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりに担当職員を決めており、利用者さんの不安やダメージを防ぐ配慮をしている。 (外部評価) 利用者の担当職員を決めており、職員の異動時はできるだけ早めに対応して配慮している。また必要時に備えて両ユニットに対応できるようなローテーションを組んでいる		緊急時に備え、どちらのユニットでも対応できるよう、ローテーションしている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修を全く行っていなかった。 (外部評価) 採用時、職員の力量により異なるが1週間ぐらい指導を受けながら業務をしている。事業所内の研修会はできていない。	※	毎月2回に分けて社内研修を行い、全員参加を義務付ける。 社外研修は、職員が交代で受講する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) いろいろな会で同業者とお会いすることはあるが、挨拶程度で、それ以上の交流が出来ていないのが現状。 (外部評価) 研修会や会議での交流ができた方と情報交換や教えてもらったりしている。今後は近隣ホーム等との勉強会を開催したいと考えている。		ケアネット久米で開催される会議に出席し、同業者と交流し、相互訪問できるよう努める。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ストレスを抱えている職員には、休暇を取らず、サポートする、仕事内容の軽減を図るなどしている。		外部からの研修案内などを積極的に利用し、改善に努める。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況は把握しているが、実績に対し評価できていなかった。	※	社内外の研修を義務付ける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所当初は十分な声かけを行い、不安を取り除くようにしている。本人をよく観察し、何でも話しやすい状況を作っている。		相談から入所までに期間がある時は度々訪問して話を聴かせていただく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前・入所後一定の間は、利用者さんの状況を定期的にお知らせし、家族の方との信頼関係を築くよう努力している。		訪問や電話をして、本人の前では聞けないことを聴かせてもらう。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時に、的確な支援の見極めがあまりできていなかった。	※	相談を受けた時には、複数の専門職員が本人と家族が、必要としている支援を見極めるための話し合いを行う機会を早急に持つようにする。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 何事も利用者さんのペースに合わせ、無理強いないよう慎重に行っている。 (外部評価) 訪問や見学をしていただき説明をしている。また職員が複数で伺い相談に応じることもある。本人や家族から情報を集め馴染める工夫をしている。急なときは今までの状況を理解できるよう家族も関わって安心感が持てるようにしている。	※	複数の職員が話し合い、見極め、家族と相談していくようにする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 個々の能力やプライド、自尊心を尊重し、共生の気持ちで介護・介助をおこなっている。 (外部評価) 利用者の得意としていることや生活の情報を知り、共に生活していることを大切にしている。職員が肩をたたいてもらっている場面もあった。		・歴史やことわざ、調理方法などを積極的に聞いている。 ・利用者間で助け合っている場面(会話)は見守っている。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者さんの日々の生活の中での出来事や変化などを詳しく伝えている。	※	定期的に利用者さんの情報をホームだよりとして、ご家族に写真を添えてお送りしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族とのよりよい関係を保てるよう、利用者さんには家族さんから聞いた家族さんの情報(例えば、お孫さんが生まれる)など伝え、家族との距離をなくすよう努めている。	※	定期的にホームだよりやイベントでの写真などお送りするなど近況をお伝える。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人が訪問しやすい環境づくりに配慮している。		・でんわやはがき手紙など、自由に書いていただく。 ・なじみの場所へドライブする。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、孤立や揉め事がないよう配慮している。利用者さん同士、互いに支え合えるような関わりを持てるよう職員が関係を取り持っている。		食事の席や作業分担など、利用者と一緒に話し合っ、孤立しないよう努めている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所後も経過を聴く、ホームの近況を報告するなどしている。入院のための対処の方にはお見舞いに行くなどしている。		入院による退所者には、定期的にスタッフが交代でお見舞いに行っている。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの立場に立った、楽しく、生き甲斐の持てる生活環境を提供するよう努めている。		本人本位。 定期的に本人の希望や意思確認を行っていく。
			(外部評価) 表情・言葉・態度等で気持ちを知り、職員間でも情報交換して、それぞれにあった対応をするよう努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所当初には、利用者さんの生活歴や暮らし方・生活環境やサービス利用の経過等は、紹介して下さった事業所やの方や市職員の担当者に聞き取りし把握に努めている。また、職員に本人の嫌がることや注意事項など細かく伝えている。		入所前に関わっていた病院や他の事業所より情報を得ている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個々の能力や生活のリズムを把握し、日々の心身の状態を細かくチェックしている。		バイタルチェック・申し送り・ケース記録及び本人とのコミュニケーションより把握する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 複数人のスタッフが集まる機会がなく、1～2名ずつで数回に分けて話し合い又は参加できない者は書面を提出し、チームで計画を作成している。 (外部評価) 本人に合った計画を目指して、本人・家族の意見や要望を聞き、月2回のカンファレンスで職員の意見も検討し作成している。	※	月に2回カンファレンスを開き、いずれか1回参加を義務付け、一度に複数人で検討する。家族の意見を取り入れる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は3か月ごとに見直ししており、本人や家族の要望はその都度取り入れている。カンファレンスでは計画の評価、介護の反映等担当が主となり見直ししている。また緊急時はその時々計画変更をしている。		急激な変化に対しては、受診・治療などにより、しばらくの間様子を見て、状態が落ち着いた時点で見直しを行って行く。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録や申し送りなど十分に出来ていないときもあった。		ケース記録・バイタル記録、日々の申し送りや重要事項はすべて連絡ノートに記入し、全員出勤時に確認する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) (外部評価) 利用者の受診や買い物へ同行している程度である。自宅訪問や冠婚葬祭行事参加、旅行、公民館活動の参加等まではできていない。	※	まだ今後の課題として検討することを期待する(介護保険のサービス・自主サービス含め)。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防署による火災訓練を行っているが、他の資源との協力は行っていない。	※	早急に地域と関わり資源の活用をする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 福祉用具購入以外は他の介護サービスの利用はしていない。		広報や地域の施設のサービス情報を収集し伝える。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとは十分協働できているとはいえないが、運営推進会議などに参加していただくなど、少しずつ前向きなっている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 往診(1名) 家族介助(1名) 以外は通院介助している。 (外部評価) 利用者個々のかかりつけ医、事業所の協力医等希望する医療を受けている。受診や通院は事業所に対応しているが、家族が付き添うこともあり、情報共有はできている。訪問診療も可能である。		家族の希望による家族の通院介助及び往診以外の方は受診介助を行っている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医の指示があったり、家族が希望されるときは受診介助を行っている。		かかりつけ医の指示があった時や、家族が望まれるときは受診介助を行う。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 通院している病院の看護職の方や協力医の支援・指導を受けている。		看護職がいないときもあるので、いないときは、かかりつけの医に相談する。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 施設を退所されるまでは、2～3日毎に訪問して、洗濯物や他の必要な日用品を届けている。		入院中は洗濯物や必要な日用品を届けるため、2～3日に1回は訪問する。 退所後は洗濯などはしないで、スタッフが交代でお見舞いに行く。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族の希望通りにしている。 (外部評価) 「重度化対応に関する指針」を作成しており、ホームで対応できるケアについて家族に説明し納得してもらっている。	※	看取りについて、契約時に決める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 看取りについて、契約時に取り決めがなく、家族の希望通りにしていた。	※	重度化や終末期の対応について事業所の「出来ないこと」を契約書に明記し、方針を決める。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人が希望されるなじみの品物を持ってきて頂いている。		本人が希望されるなじみの品物は、備え付けの物と入れ替える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 配慮のない声かけをしていることがある。 (外部評価) 利用者の誇りを大切にした対応を心がけている。声のかけ方、態度等は丁寧なゆったりとしている。会話の内容にも注意している。	※	・職員の教育を徹底的に行う。 ・記録簿は、利用者・外来者の目の届くところに置かない。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人が理解できる方法（言葉や文字）で支援している。		本人が理解できて、決定できるよう言葉やジェスチャー、文字など工夫している。
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者本位。命令しない、強制しない。 (外部評価) 本人の希望を大切にしており、基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調やペースにそった生活をしている。昼食後も居室に入る方、居間で個々に過ごす方と自由になっている。		利用者優先が原則。業務優先をしてはいけない。押し付けてはいけない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 特に希望がない人は、送迎してくれる業者に依頼している。		美容院は家族さんで行ってもらう。理容室は送迎できる店に依頼している。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の手入れや収穫・調理の下ごしらえ・味付け・お茶くみ・下膳など。 (外部評価) 献立は利用者の希望を聞いて立てている。調理の準備(皮むき、簡単な作業)、配膳、片付け、テーブル拭き等している。食事は嚥下困難の方が現在いないため同じものを準備している。食事に時間を要する方は時々声をかけたり援助している。職員も同じテーブルと一緒に食べるため話題も多い。新鮮な野菜等を使い、調理も上手に美味しくできている		野菜の収穫・調理の下ごしらえ・味付け・お茶くみ・下膳などを強制しないで、出来る人にしていただく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ・お酒はスタッフが管理している。 ・食事制限のある方のおやつやジュース類はスタッフが管理している。		・お酒は主治医の許可をもらい、決められた量を守っていただく。 ・火災防止のため、喫煙はお断りしている。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄の声かけ・早めのおむつ交換を行っている。		本人の行動・表情を観察し、排泄パターン以外の声かけやトイレ誘導を行う。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望により時間を合わせている。 (外部評価) 本人の希望に添う入浴をしており、当日の朝本人に確認している。また入浴を嫌がる利用者への声かけや対応には工夫をしている。入浴時の対応は利用者ごとに配慮し羞恥心等にも気を付けている。		週2回以上の入浴を予定し、希望があれば回数を増やしている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本位。自由にしていただいている。		・リビングは常時明るくしており、起床や消灯の時間は決めていない。 ・利用者本位で遅くまでテレビを見ている人もいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) アイロンを掛ける人、洗濯物を入れる人など、利用者間で話し合っていて決めていることには意思を尊重している。 (外部評価) アイロンがけ、洗濯物入れ・たたみ等利用者間で話し合っていて役割を決めている。掃除、野菜や草花の手入れは興味のある方が出している。散歩は毎日しているが、外出が少ないため、今後外出機会を増やせるよう計画したいとの希望がある。		・役割については、利用者同志で話し合っていたことがある。 ・施設外での作業（野菜や花の手入れ）は興味を持っている人に自由に行っていただく。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が管理できる人には小遣い程度を持っていただき、外出時に買い物していただく。		お金の管理が出来ない人でも持っていたいと希望があれば、家族と話し合いで小額を持っていただく。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は一日一回以上建物から出て、日に当たることに決めている。 (外部評価) 天気のいい日は一日一回以上はホーム外へ出て日光に当たることにしている。スーパーへの買い物、近くの神社・病院・ドライブ等希望にあわせて支援している。家族と共に観劇に出かける利用者もいる。	※	一日一回は建物より外に出る。 一人ひとりの楽しみごとに合わせて、散歩だけでなく外食やお弁当を持って出かけたり、喫茶店等でメニュー選びもしてこれまでの生活の継続やホームでの生活の変化の一つとなるよう期待する。歩行困難な利用者も車いす等を利用し一緒に行動できることを期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ・希望者は地域や近隣の行事や花見など職員と出かける。 ・家族さんの希望で迎えに来られたときは、自由に外出していただく。		短時間でいける場所での行事や季節の景色の移り変わりなどを職員と一緒に楽しむ。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は子機を利用して直接本人と話していただいている。 ・手紙が書けない人から希望があれば代筆している。		家族へ年賀状と暑中見舞いを出すため、施設よりはがきを渡している。書けない人は代筆して近況をお知らせしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 一部の利用者さんはできていない。 面会時間や人数の制限はなく、居室・リビング・和室の内、自由に選んでいただく。		面会時間や人数の制限はしていない。 面会者との外出も自由で、職員が目的地まで送迎することもある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 必要最小限の短時間の拘束は、家族の同意を得て行っている。		カンファレンスを行い、やむをえない場合のみ、家族の同意を得ている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には居室に鍵を掛けることは禁止している。 玄関は夜間のみ施錠している。 (外部評価) 夜間のみ玄関に施錠している。居室は利用者が内側から施錠することは可能である。その時は必要時職員が開けることは了解を得ている。職員は利用者の行動を見守っており、様子を察知し、時々声かけをしている。		本人の希望があれば本人に内側から掛けていただくが、安否確認のため、スタッフが開けることの詳細を得ている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室の戸を閉め切らないなどし、常時様子を伺えるようにしている。 利用者さん一人ひとりに担当職員を設け、責任を持たせている。		ケース記録・バイタル記録、申し送りの徹底。長時間居室に閉じこもり、施錠する習慣のある人には、安全確認のため、時間を決めて訪室することに同意してもらっている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握し、危険注意の必要な物品の使用・管理・保管をし、安全に心がけている。		危険注意の必要な物品の使用には必ず担当職員が介助する。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員の知識が同レベルではない。	※	研修やセミナーに積極的に参加できる機会を作る。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当については、マニュアルを作っているが、全ての職員に対し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	※	職員全員が対応できるよう、訓練や研修を早急にする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の人々との関わりが薄く、協力が得られるよう働きかけていない。 <hr/> (外部評価) 防災訓練はホームで行い、マニュアルはできており、必要などころには連絡通報を掲示している。地域の人々への働きかけはしていない。	※ ※	地域の人々の協力が得られるよう働きかける。 運営推進会議や自治会等で協力を呼びかけることを期待する。訓練は消防署の協力を得て定期的実施し、避難経路の確認や消火器の使い方、普段の注意事項等を確認することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 計画書の説明や面会時に相談している。	※	些細なことでも気が付けば、その時点で家族に連絡をし、説明・相談をする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックと表情・問いかけで、体調の変化を発見し、緊急を要する時はマニュアルに沿って対応している。		毎朝バイタルをチェック、記録し、表情や問いかけで体調の異変を発見する。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりに合った服薬介助を行い、こぼしたり、勝手に調整しないよう確認している。		・一人ひとりに合った服薬介助を行う。 ・飲み残し、こぼしたり、勝手に調整していないか確認を行う。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 体操をしていない。 散歩介助を行うことが極端に少ない。	※	・飲食物の工夫をする。 ・身体を動かすレクリエーションを行う。 ・室外での散歩を日課にする。 ・1日2回、午前・午後にラジオ体操を行う。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ・口腔ケアを拒否する人に対し、再度声かけをしていない。 ・全介助の利用者のケアは行っている。	※	・職員が一人でも多く口腔ケアの研修を受ける。 ・利用者全員が食後の口腔ケアができるよう、声かけ及び介助を行う。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 粥食やきざみ食で対応することがある。 水分制限のある人にはオーバーしないよう、他の人には十分摂取していただくよう、ペットボトルや急須を居室に置いている。 <hr/> (外部評価) 食事や水分の摂取量をチェックして記録している。利用者の好みを把握し、個々に応じた配慮をしている。栄養の専門的なチェックはしていない。	※	・偏食の多い人には別の献立をしている。 ・食事時以外に入浴後及び10時、15時にコーヒーやお茶などを飲んでいただく。 ・いつでも飲めるよう、居室にお茶など準備している。 ・水分制限のある人には、本人に納得してもらい、少量ずつ回数を多く増やして飲んでいただく。 定期的に栄養士による専門的な観点でチェックを受けることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 研修ができてなく、認識が薄い。	※	流行の時期には貼り紙や連絡ノートを利用し予防に努めているが、社内研修を毎月開催し、全員が予防の大切さを再認識し、実行する。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 賞味期限の過ぎた物は利用しない。 冷蔵庫を過信しない、詰め込まない。 調理済みの食品は素手で扱わない。		賞味期限の確認を行う。 材料の買い置きはしない。 (当日又は前日に準備する) 冷蔵庫に入れすぎない、調理済みの食品は素手で扱わない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ・玄関の場所はわかりやすくガラスのため、事務所が見える。 ・駐車場は広く、玄関まで乗り入れできる。		敷地内に入ると玄関が正面にあり、ガラス戸のため、事務所から見えて、すぐ対応できる。 ・玄関のそばに車を止めることができる。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング・洗面所・洗濯場・浴室は南向きで明るく、テラスでは洗濯物や布団が干せる。 (外部評価) ゆったりとしたスペースがあり、ソファ等くつろげる場所がある。トイレは車いすでも利用可能である。換気や掃除などで常に臭気には気をつけている。テーブルや壁には季節の花や飾りがある。テレビの音や日差しも気にならない。		・玄関まで段差がなく、楽に移動できる。 ・季節の草花を飾ることで、季節感を味わっていた。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各々がソファ・テーブル・和室の好きな場所でテレビを見たり、横になったり、会話をしている。		リビングに和室が続いており、横になったり、正座をしたり、ソファでリラックスしたり、思い思いに過ごせている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたもの、気に入っているものを持ち込み、本人の好きな場所に置いたり、途中で置き場所を変更して、気分を新たにしている。 (外部評価) 馴染みのテーブル、いす、テレビ、仏壇、箆笥、ロッカー等持ち込まれており、配置等も個々に使いやすくしている。カーペットやコタツも置かれ、生け花や写真も飾ってある。希望があれば家族の宿泊も可能である。		家具などの持ち込みは自由で、配置についても本人の希望に合わせている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ・気になる匂いがある時は利用者さんに声をかけをして、短時間で換気を行っている。 ・温度調節は外気温と夏は5度程度とし、冬は利用者確認して寒くないようにしている。		・トイレは24時間換気をし、においがこもらないようにしている。 ・居室の温度調整は、本人と話し合い、外気温と大きな差がないようにしている。
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下にものを置かない、床は濡れていないかなどのチェックが十分ではない。	※	利用者さんの立場に立った目線でのチェックの徹底をする。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 理念に沿っての介助に努めている。		失敗をしても指摘しないで自信を失ったり、消極的にならないよう援助している。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 敷地内には畑があり、季節の野菜や花を植えている。野菜収穫や花の世話をご自分のペースでできるようにしている。		花や野菜の手入れなど、敷地内の活動については、一人ひとりの能力に合った方法で自由に行っている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ①ほぼ全ての利用者の 評価) ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ①毎日ある 評価) ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	食事やおやつを会話を交えながら食べる時間を持つようになっている。 折り紙や絵、書道など共に作業し楽しい時間を共有している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	起床・食事・入浴・就寝など、利用者本位。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	声かけをすれば外出するが、積極的にはでかけない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	定期受診以外に体調の変化がある時や本人からの訴えがある時は、受診介助を行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	本人からの訴えがある時は、迅速に対応をしている。 常時利用者さんの状態を伺い、不安や求めていることに耳を傾け改善するよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己 ①ほぼ全ての家族と 評価) ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	時々しか来られない家族さんがいる。 面会時には、面会前後に話し合っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ①ほぼ毎日のように 評価) ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	地域との交流がほとんど図れていない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民や地元の関係者とのつながりがなかったことと、運営推進会議の開催が遅れたため(初回：平成19年1月)
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	無理のないシフトを組んでいる。職員に偏った作業負担をかけない様に気をつけている。不満や意見はいつでも言える状態を作っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	長時間かけて、遠出をしたい希望はあるが実行できない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時にご家族に改善すべき点をお伺いしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)